

日本人胎盤の脂肪酸組成の不均一性に関する研究

Yamazaki *et al.* Heterogeneity of the fatty acid composition of Japanese placentae for determining the perinatal fatty acid status: a methodological study. *Journal of Oleo Science*. 2015;64(8):905-914. doi: [10.5650/jos.ess15071](https://doi.org/10.5650/jos.ess15071).



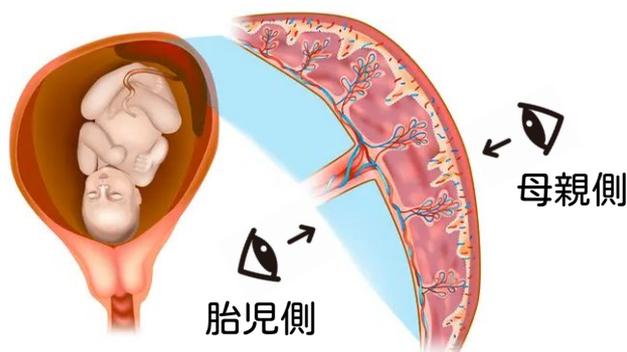
【はじめに】

妊娠中に母体から胎盤を通して胎児に供給される脂肪酸は、胎児の発達に重要な役割を果たしています。胎盤は身体を傷つせずに得られるため、胎盤組織を使って妊婦や新生児の脂肪酸状態を把握する試みが検討されています。しかし、胎盤組織の採取方法は十分に検討されていません。そこで本研究では、胎盤組織の採集に適切な方法を検証しました。

【調査項目】

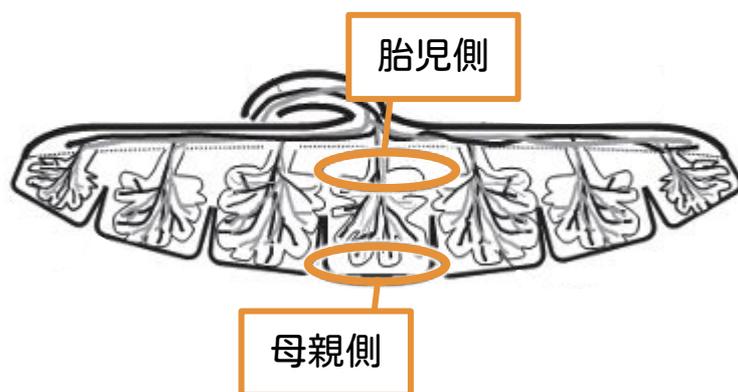
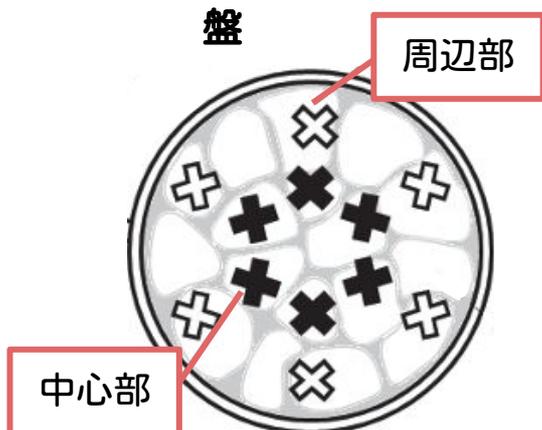
宮城県在住の妊娠女性から24個の胎盤を得ました。そのうち5個の胎盤では母親側の周辺部と中心部から6か所ずつ(A)、他の19個では胎盤の胎児側と母親側から(B)組織の一部を採取しました。採取した組織から脂肪酸を抽出し、その組成の違いを調べました。

【結果】



(A) 母親側から見た胎盤

(B) 胎盤を横から見た断面



(A)では、中心部に比べて周辺部の方で、採取する場所によって脂肪酸の量が大きく変わりました。(B)では、胎児側では脂肪酸の前駆物質が多く、母親側では前駆物質が代謝されてできた脂肪酸の最終生成物が多く存在していました。

【この調査でわかったこと】

脂肪酸の組成は、胎盤の摂取部位によって不均一性があることが分かりました。よって、胎盤組織を脂肪酸状態の判定に使用するには、組織の採取場所を定める基準を作る必要性があることが示されました。